

＝ コラム 佐久今井城 ＝

長野県内には「今井」という地名はいくつも見られます。松本市今井、長野市今井、岡谷市今井などがよく知られていますが、それらはそれぞれ、今井兼平やその一族と関係が深い土地のようです。



この「今井城跡」の場所は千曲川と滑津川が合流する地点の北側の段丘の端に位置していて、ちょうど「尼が淵」の北側に建つ上田城と似たような立地です。また、地続きとなる東側に大きな空堀を入れて先端を主郭とした城で、その外側にも曲輪があったようです（図版は「国土地理院発行の2万5千分1地形図」より）。



2022年11月27日、諏訪形誌活用員会では当地を訪ねてみました。なかなかわかりにくい場所で、農作業をしていた女性に場所を教えていただいたところ、「このすぐ先だけれど、何も残っていないですよ」とのこと。教えていただいた案内板に従って行ってみました。



この場所は、河岸段丘の南端に広がる場所で、現在は「城跡」であることを示すものはありません。調査結果などでは「土塁のあとが見られる」とのことですが、よくわかりません。畑が広がり、いくつかの墓地があるだけです。佐久市の教育委員会で建てた標柱と思われるものもありましたが、傷んでいて表面の文字はほとんど読むことができません。また、「今井城跡」の石碑があるはずなのですが、見つけれませんでした。



さて、ここは本当に今井兼平の居城跡なのでしょうか？もしそうだとすると、12世紀ころのものということになります。これ以降は私はよくわからないのですが、木内寛氏の『定本 佐久の城 1997年 郷土出版』によると「これを城の縄張でみると、木曾義仲時代の道本城や落合館とははっきり相違しており、むしろ戦国時代前の土豪の崖際平城の姿をしている」と考えられています。これ以外の資料でも「…出土遺物は土鍋、カワラケ、常滑寶片といった陶磁器類と鉄製品があった。土鍋は形態より15世紀末に在地で焼かれたものと考えられる。このことから今回の建物址もおおよそ中世後期（15～16世紀代）と推定される（佐久市史中世編）」「構造や遺構から判断すると戦国期の城と思われます（城逢人 城攻日記 web版）」とされていて、兼平の居城とするにはやや無理がありそうです。



遺構は中世城館の典型ということで、岩村田の大井氏に関連する城との考えるのが妥当という見方が一般的なようです。戦国期には、このあたりで武田氏と大井氏、武田氏と村上氏の戦闘が繰り返されたことから、今井城もある時点で補強され、活用されたのかもしれませんが。

なお、長野県以外にも今井兼平の築城とする伝承をもつ城郭（砦）が各地に存在するようです。

- | | | |
|------|---|-----------------------|
| 東京都 | … | 今井城（東京都麻布区今井町、現在の六本木） |
| 神奈川県 | … | 今井城（横浜市保土ヶ谷区） |
| 新潟県 | … | 今井城（新潟県糸魚川市今井） |
| | … | 今井城（新潟県中魚沼郡津南町） |
| 富山県 | … | 白鳥城（富山市呉羽町） |
| 福井県 | … | 今井城（福井市小羽町） |